

いずみさの 教 育



問合先
学校教育課

自分らしい生き方の実現をめざす「キャリア教育」

情報化やグローバル化など、変化が激しい社会の中で、今なお続く新型コロナウイルス感染症の影響も重なり、子どもたちの日常生活は大きく変化しています。そのような状況にあつて、これから子どもたちが自らの力で生き方を選択し、社会人・職業人として自立し、役割を果たしていくには目的意識をもつて、主体的に対応していくことができる力と態度を身に付けることが必要不可欠です。

子どもたち一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達（*）を促す教育を「キャリア教育」といい、小・中学校の学習指導要領にも位置づけられています。市内小・中学校においても、自らの生き方を考え、自ら生き方を選択していくことができるよう、キャリア教育を推進しています。

市内の各中学校区では、各校区の子どもの実態に応じて「キャリア教育全体指導計画」

を作成し、各校区で設定した「校区のめざす子ども像」に向け、「つながる力」「わかる力」「きめる力」「えがく力」「チャレンジする力」の5つの力をはぐくむ取組を行っています。昨年度はコロナ禍の影響で実施が難しくなりましたが、例年、多くの事業所や施設などでお世話になっている中学校の「職場体験」は、このキャリア教育の一環です。

また、昨年度より、自らの学習や活動について振り返ったり、将来を見通したりしながら、変容や成長を自己評価してフィードバックを活用しています。これからも、子どもたちが自分の変化や成長を実感し、将来に向けて展望をもって生きていくよう取組を進めていきます。

（*）キャリア発達とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程のことです。

学校園紹介

コロナ禍でみつけたもの～小スケート週間の実施～ ～第一小学校～

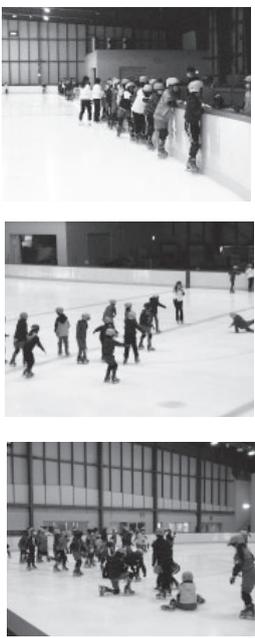
昨年度は新型コロナウイルス感染拡大予防のため2ヵ月遅れで学校を再開しました。全市的に各学校では子どもたちの安心・安全を最優先に行事を選び、授業時数の確保に努めました。

様々な行事の中止などにより、子どもたちは我慢をするということを学んだかもしれません。しかし、思い出に残るものを1つでもと考え、市教委の支援のもと校区にある関空アイスアリーナにてスケート体験週間を実施することができました。

3密を避けるため、学年ごとに2回のスケート体験をしました。子どもたちは、大満足で、スケートを通して「やればできる」ことを学びました。感想文には満足感があふれていて、次回は家族と行きたいという感想も多かったです。

後日いろんな保護者と話す機会があり、「子どもは嬉しそうに学校のことを話してくれた」「また家族でも行こうとせがまれた」などと保護者も嬉しそうに話されていました。

1・2年生はサイズに合った靴が足りないため、二色の浜へ遠足に出かけました。快晴で楽しい1日を過ごしました。



みんなのねがい☆2021 ～末広小学校～

末広小学校では、自分たちの学校をもっと良くするために、児童会（代表委員会）を中心に、自分たちでできる事を考えています。その一つが、「異学年交流ボランティア活動」です。コロナ禍で活動が制限される中で、自分たちで何ができるかを話し合い、活動につなげていきました。

今年1月に実施した「みんなのねがい☆2021」では、今年の願いを全ての学年の希望する児童が短冊に書き、廊下に飾りました。その活動の中で、4年生以上の児童がボランティアになり、低学年の児童が短冊に願いを書き込むのをサポートしたり、願いのこもった短冊をつるしてあげたり、安全な距離を保って並ばせたりしました。総勢55人の児童がボランティアとして登録し活動を行いました。ボランティアの児童は、短冊に願いを書きに来る低学年の児童に対し、自分で考えて優しく接していました。

短冊には、将来の夢が書かれているものもありましたが、「コロナがかわりますように。」「みんなが元気にくらするように。」「コロナの中でも、みんなが『えがお』でいられるように。」など、新型コロナウイルスに関連するものも多くありました。

ボランティアという主体的な活動は、児童の自信につながっていると考えます。また、その姿を見た低学年の児童が「次は自分が」という思いを持ったことと思います。今後も児童の自己有用感を高めていけるよう、自主的に活動する場を児童会で話し合っていければと考えています。

